

無差別攻撃

子ども犠牲

病院爆撃 学校も被害

ロシアが侵攻したウクライナで、子どもの被害が拡大している。ウクライナ当局の発表では41人が死亡し、76人が負傷。民間人も巻き込む無差別的な攻撃が続々、実数はまるかに多いとみられる。国連による「100万人以上の子どもが難民となり、近隣諸国への出港を余儀なくされた。

▼1面参照

「民間人が避難している」。制服姿の男性が叫んだ。直後にオレンジ色の光が現れ、爆音が響いた。煙が引くと、子どもと女性が倒れていた。8日、現場に記者らが巻き戻された。ヨーク・タイムズ(NYT)が報じた。子どもは10代とみられる男の子と、8歳くらいの女の子だった。迫撃砲による攻撃があったのはキエフから北西約25㌔の街イルビツ。走って避難していた母子3人と同行していた知人男性が亡くなつた。

国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)によると、2月24日の侵攻開始から3月9日前の間に民間人516人が死亡した。ウクライナ最高会議(議会)のデニソワ人権委員は8日、侵攻開始から同日までに子ども41人が死亡、76人が負傷したとSNSに記した。

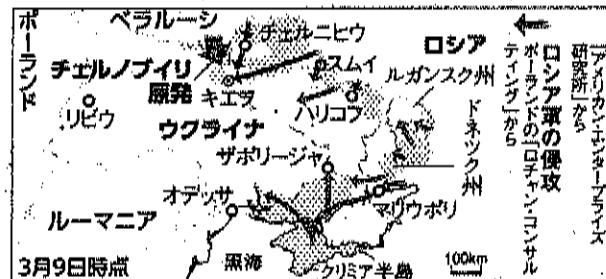
南東部マリウポリでは9日、産科病院や児童病棟が爆撃をうけ、女の子1人を含む3人が死亡した。ゼレ



ンスキー大統領はSNSで「がれきの下に子どもがいる」と述べた。また、ゼンスキー氏は8日、マリウポリで、脱水症状で亡くなった子がいると明かした。同市はロシア軍に包囲され

の影響で、食料や水、電力の供給が断たれている。ロイター通信によると、北東部ハリコフ州では、侵攻は被害を受けたと発表。政開始から8日までに計170人が死んだ。うち70人は子どもだったといつ。子どもだったといつ。

戦争により、子どもたちは教育の機会も奪われた。国連児童基金(ユネセフ)は3日、学校や孤児院も大きは被害を受けたと発表。国連人道問題調整事務所(OCHA)の7日の発表によると、すでに210万才以上の教育施設が被害を受けた。「3~17歳の約570万人が、教育へのアクセスで影響を受けている」としている。産科病院への爆撃をう



ロシア軍が攻撃したエリヤウラルシチカニヒウ、ドネツク州、ルガフ州、オデッサ、ルーマニア、クリミア半島など。マリウポリ、ハリコフ、ザボリージヤ、ウクライナ、モスクワ、サンクトペテルブルク、キエフ、リビウ、オデッサ、ルーマニア、黒海、クリミア半島

3月9日時点

け、「ユネセフのラツセル事務局長は9日の声明で、民間人や病院、学校への攻撃を直ちにやめるようロシア側に要求。「ウクライナの子どもたちは、何よりも平和を必要としている」と訴えた。(佐藤謹)